

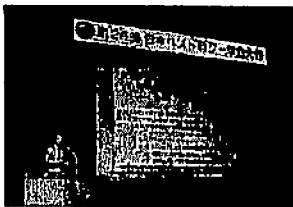
ベストロジャー若手談話会
 今回は業界と学生の接点作りを

日本ベストロジャー学会若手談話会は、大会初日の11月4日午前9時30分から、愛媛県松山市の愛媛県民文化会館(ひめぎんホール)サブホールで、第20回若手談話会パネルディスカッションを開催した。

当日はPCOやメーカー関係者など47人が参加し、「論文への道のり」をテーマに、PCO企業内での研究を形にするため、現場から学会発表を経て、論文化する手法について①学会発表もビジネスの糧(新名史典・サラヤ㈱)②学会発表から論文発表へ(佐々木力也・富士フレッパー㈱)③論文化への道のり(渡部泰弘・㈱フジ環境サービス)の3題の講演が行われた。

まず、①では、社内外でビジネスプレゼンサポーターとして活躍する新名氏が、プレゼンスキルについて、プレゼンの目的、聞き手の立場、スピーカーとしてのふるまいの3点から、動画サイトの活用、話し手と聞き手のギャップを埋める手法、プレゼンの練習方法などを解説し、「研究成果を社会に広める方法として“発表”は非常に有効であり、最善を尽くして欲しい」と若手研究者へエールを送った。

②では、学会発表と論文発表の違い、



現場の視点から研究発表、論文化しビジネスにつなげる手法を講演

論文の構成と内容等を解説。佐々木氏は論文を書くことにより研究(成果)の質、個人の能力の向上し、企業組織にとってもプラスにつながることを強調した。

③で渡部氏は、PCOが日常現場で起こる事象から研究テーマを見つけることが重要であり、テーマの選定には自社や顧客のメリットがあるもので、論文作成には日常業務に支障を来さない工夫が必要とした。

今回のパネルディスカッションについて、談話会事務局では「参加者からは、論文からどう研究につなげるかがよくわかり、参考になったとの声も多く、問題提起という意味で成果はあったと思う。学生を参加させてはという意見もあり、人材の育成や業界と学生の接点を作る意味で次回に向けて検討していきたい」としている。